

眼科カリキュラム

I. 目的と特徴

眼科は、眼球およびその付属器を専門に扱う分野です。視覚障害は患者さんの QOL の低下に直結し、それに伴う患者さんの苦悩は計りしれません。本プログラムの目的は、視機能を理解した上で、それらの異常である種々の眼疾患の診断・内科的治療および外科的治療について習得することです。当科では、眼科疾患全般を取り扱っており、バランスよく研修することが可能であり、眼科指導医および眼科専門医が直接指導にあたります。

II. 研修責任者

三田村 佳典 教授 (日本眼科学会専門医、日本眼科学会指導医)

III. 運営指導体制および指導医数

教授 1 名、准教授 1 名、講師 2 名、助教 5 名、医員 4 名。日本眼科学会指導医は 4 名、日本眼科学会専門医は 11 名、ICD2 名。初期研修医 1 名につき、1 名の眼科専門医（指導担当医）が選任され、外来および入院患者の診療を共同で行います。日本眼科学会指導医講習会修了者数は 5 名です。

IV. 臨床実績

外来患者数は 1 日平均約 80 人、手術件数は年約 1000 例行っています。診療対象は眼科全般にわたり、網膜・硝子体、角膜・角膜移植、緑内障、斜視・弱視、眼瞼・眼窩・涙道、ぶどう膜の各専門外来を設け診察にあたっています。また、LASIK 外来および手術を 2 週間に 1 回行っています。

V. 研修目標

一般目標：

- (外来) 必要な眼科検査手技を習得し、外来診療を適切に実施する能力を養う
- (病棟) 担当医として、眼科手術前後の局所・全身管理（診察、薬剤投与、処置など）ができる
- (治療) 眼科領域の基礎的治療に関する意義・原理を理解し、手術適応を決め、手術手技を習得し、治療前後の管理ができる

行動目標：

1. 眼科検査を理解し、自ら検査を行うことができる。
視力検査：屈折、調節、矯正視力検査

眼圧検査：空気眼圧計、ゴールドマン眼圧計

視野検査：中心視野、周辺視野

眼位、眼球運動検査：スクリーンテスト、プリズムカバーテスト、眼球突出計

眼部超音波検査、角膜内皮細胞計測

眼底撮影・蛍光眼底撮影（基本的疾患の所見がわかるようにする）

細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、隅角検査ができる

2. 適切な問診、必要な検査ができ、その所見から診断を下すことができる。
 - ・角結膜炎、白内障、緑内障、糖尿病網膜症、網膜剥離、斜視、ぶどう膜炎などを担当し、眼科的診療行為を習得する。
 - ・症状（視力障害、飛蚊症、眼痛、夜盲、視野障害、複視、結膜充血など）から疾患を推測し、必要な検査ができる。
 - ・重症度および緊急度の把握（判断）
外傷（穿孔性眼外傷）、急性緑内障発作、網膜動脈閉塞症など
 - ・他の医師、看護婦、検査技師などとの円滑な連携を保ちながら診療できる。
 - ・患者を適切な診療科へ紹介でき、また他科からの紹介に対して適切な返答ができる。
3. 適切な治療を選択できる。
 - ・手術患者の手術前後の管理ができる。
 - ・薬剤の適正な処方・使用ができる。
4. 基本的な眼科手技および手術
 - ・手術の基本的な手技（無菌操作、消毒、切開排膿、結紮、顕微鏡操作）ができる
 - ・手術法の原理と術式の理解
 - ・以下の手術・処置を指導医の下に実施する。
 - 涙道ブジー（涙管通水、洗浄を含む）、結膜異物除去、角膜異物除去
 - 麦粒腫切開、眼瞼縫合
 - 結膜下注射、テノン嚢下注射など
5. 適切な医師・患者関係の確立
 - コミュニケーションスキル
 - 患者さんと家族のニーズおよび心理的側面の把握
 - インフォームドコンセント
 - プライバシーへの配慮
 - 失明の告知とリハビリテーションへの理解

VI. 研修内容

- 1) 眼科における基本的検査手技を習得し、所見が判断できるようにする。各検査については外来医長及び眼科専門医により、手技の説明及び実習・指導を行う。

2) 指導担当医とともに、外来・入院患者（眼科の基本疾患および全身疾患に伴う患者さん）を担当し、疾患の理解、治療の流れが理解できるようにする。

3) 基本的治療手技および手術を理解する。

眼科手術前後の管理（点眼薬、輸液、薬剤投与など）、眼科手術の基本的手技の習得、手術法の原理と術式を学ぶ。

上記が理解できたうえで、指導担当医とともに処置を実施する。また、手術助手をつとめ、場合によっては指導医のもとで執刀する。

VII. 研修スケジュール

各種眼科疾患患者を外来から入院まで継続して担当する。受け持ち患者の検査、治療には責任をもってあたり、症例検討会、教授回診では、症例提示を行います。

病棟診察	: 月曜日～金曜日 朝
外来診察	: 月曜日、水曜日、木曜日
教授回診	: 水曜日 午後
手術	: 火曜日、金曜日
医局会	: 水曜日 午後
抄読会・症例検討	: 水曜日 午後
研究会議	: 水曜日 午後

VIII. 評価法

研修責任者と指導担当医が研修態度、症例提示、患者さん・家族・スタッフへの対応、知識・技術の習得度などを総合的に評価し、研修終了時にフィードバックをします。最終的評価はオンライン臨床研修評価システム（EPOC）を用いて行います。